

二十年六月二十二日

庶務日誌八長い間途絶エテキタ ココニ之ヲ復活シ重要ナル事項ヲ折ニツレ書キ続ケントス。現在在舎生左ノ如シ

三村拓生（工・機三 帰省中） 田崎光荣（工・電・二 勤労働員出勤中）  
北野康（前副舎長 理・一甲 アルバイト） 河瀬登（医・一甲 言副舎長）  
河村宏一（工・機一甲 帰省中） 石川夏（工機一甲） 草地良作（医・一・甲）  
小杉孝蔵（農林一甲）帰省 村上宏（医・一・甲） 兼坂専市（工・機・一乙）  
山本雄二（工・電・一乙） 辻利男（農畜二・一乙） 平巖（予医・に アルバイト）  
石田茂張（予医ニアルバイト） 戸倉亮三（予・医・ニ帰省） 今井俊彦（予・理・ニ）  
中津正美（農林専一・アルバイト） 十河昭（農林専二 アルバイト）  
増田篤男（予・理・一アルバイト） 清水和（工・専一 アルバイト）

以上二十名 中現在在舎生八名

舎生ノアルバイト出勤ニトモナヒ舎ノ役員ヲ本日左ノ通り定ム。

- 一 副舎長 河瀬登
- 二 会計委員 草地良作
- 三 労務部長 村上宏（主に畑の仕事）
- 四 戦時生活部長 山本雄二（防空・配給・衛生・文芸）
- 五 防空係員 河瀬登 村上 草地 山本 辻

本二十二日、会食を行ふ 残留舎生八名夕食を共にし右のうちあわせをなす。終わってピンポンを為す。

六月二十六日

北野くん、横須賀海軍Z造機蔽より休暇で帰舎。約一ヶ月滞在の予定。同時に河村君（空襲にて家類焼のため帰省）もともに帰舎。尚、小杉君はまだ帰省中。戸倉君も今朝帰舎。一時に三名増、だいぶにぎやかになって来た。舎の西側のローン、畑にするため立ち木倒すべく交渉中。

七月一日

昨日、石田君、清水君のアルバイトより帰る。石田君は本日再び出。辻、今井、戸倉の三名、支笏湖へ出。

医専新入の飯田尚治君が本日より入舎されることになった。

本日、朝からアルバイト。舎の東側の立ち木をだいぶを切り倒し（交渉済み）畑にする。本日中に完了するつもりであったが、あまりにも、作業人員が少なくて殆ど出来なかった。公の為に献身的に働くということは難しいことである。一部の諸君はよく働いてくれたが、大部分のものが、そうでなかったことは残念である。何とかしてみんなそろって愉快地アルバイトをするやうにしたいものである。一部に舎のアルバイトを無視して支笏湖に行くものなど生じたことは、自分の不徳も与って力あることならん。真にすまないことである。自ら率先垂範をモットーとしてがんばって行きたい。

三日間ばかり、本道への来襲(B29)があったが、今日は珍しくない。

七月三日

新入舎生飯田君の迎へ。一同、自己紹介、後、舎生活につき左の如き事項を決定す

一、役員

勤労部(村上) 木・薪(兼松) 畑(村上)

生活部(山本) 衛生(辻) 文芸・運動・防空(山本) 配給(北野、河村)

会計(草地)

庶務(北野、河村、石川)

一、毎週月曜十七時半より会食す。

一、門限十一時迄 音楽六時迄 朝・夕食 九時、二十一時迄

七月六日

五・六の両日は学部の教練査閲があった。

昨六日、北野、村上君、みつばを持って宮部先生の所へ参上。本日は、河村、草地、飯田君と共に河瀬、同先生拓へ参上。飯田君の紹介、月次会の案内をなす。話は前後するが四日、舎生一同、舎の東側の倒木の整理をなす。四、五両日は停電にて勉強家諸兄、大弱り。やむを得ず駄弁ったり、エッセンづくりをなす。

五日、清水君、円山のアルバイトに出発。

七月九日 曇

七日、全員で舎の東北の枯大木を切り倒す。直径約一・二米 無事切り倒したときは全く創刊なりき。本日は又、石川君が一人で、くるみの枝を切ってくれた。大部分の舎生が積極的にアルバイトをしてくれたことは喜ばしい。

今朝、中津君、アルバイトより休暇にて帰舎

七月十二日

石川、草地、村上、河瀬の四名、宮部先生の御宅へ参上。防空用、物品埋没壕を掘る。

山本、辻、兼松等相次いで帰省

七月十九日

七月も終わりに近づかんとしているといふのにまださっぱり夏らしくならない。といふよりも秋らしいと云った方がよいかも知れぬ。自分はまだ掛け布団を二枚かけている有様である。玉蜀黍はまだ一尺位、十四、五、六の三日間、敵機来襲あり。三日間延べ機数一千機を越ゆ。各地区の軍事施設に相当の被害ありし模様である。然し、札幌市には全々来らず。近い中には来るだらう。

十八日に戸倉君、東山にアルバイトに出発。

兼松、山本君帰舎。

七月二十三日 月 晴

二十日、決算。集まるもの草地、北野、村上、河瀬の四名。

ここしばらく来襲がないので、又、のんびりして来た。近頃はエッセン作り大繁盛で、毎

晩どこかの部屋で作っている。

楓林原稿、二十二日締め切りなりしも未だ全部は集まらざる様子。それに人数も少ないので貧弱なものになりはせぬかと心配である。石川君、本日帰省。現在舎生は、為替、飯田、北野、草地、兼坂、村上、山本、河村、小杉の九名である。小じんまりしたものだ。

今日は久し振りに晴天だった。

七月二十六日 木 晴

近頃、各家族で防空壕を掘り始めた。寄宿舎の土地が空いているので到る所に侵入された。安田さん、細川さん、その他の家である。然るに 用の壕は、まだ立派なのは出来てない。近い中に作らねばならぬ。又、もう、これ以外、他の家の防空壕は作られない様にならないと畑にも不自由する様になる。村上勤労部長、計画を樹て、八月五日迄に、舎の全空地を畑にすることになった。賄いの小母さんの娘（美恵ちゃん）が今度学童疎開にて角田に行く。今日出発。

七月二十九日 日 晴

晴天つづき、今日あたりは大分夏らしくなって来た。三日ばかり続けて警報発令。函館地区へB 2 9 来襲。札幌へはさっぱりやって来ない。

昨日は、草地、村上、飯田も帰省し、残るもの僅かに五名。即、来たの、河村、小杉、山本、および自分（河瀬）。山本を除く四名で、時田先生御宅へ御祝いに行ってきた。先生は今度、農学部教授、能楽博士にならる。舎の理事、監事四先生の中、最初の教授である。めでたし。

今夜は、帰省中の前の三君帰舎し三号室にて駄弁る。楓林原稿の批評等す。

尚本日は、日曜なので午前中残留五名にて、畑のアルバイトをなす。昼食はおはぎ（無糖）然し、快適！！

八月六日 月 晴

河瀬は七月三十一日夜発にて帰省、五日夜帰舎。この頃、めきめき暑くなった。本当に夏らしい。今夜は、二十七度（C）即八十度（F）である。現在、舎にあるもの約十名、全く平和である。ただ、畑（及び薪？不明）のアルバイトの進捗が思わしくない。これは、自分に全責任のあるところ、陣頭に立って大いにアルバイトし、皆の範たる様心掛けなければならない。

八月九日

七日夜、北野君と二人でK君に対し、注意（舎生活）を促す。後、改めんと努めてくれる事はうれしい。八日、村上君と河村君と三人でテニスコートの畑に肥料（？）をやる。？？とHamをまぜて、まくのである。慣れると大した事もない。生まれて始めてである。昔の学生と吾等現代学生との相違！！時の流れは総ての面に及んでいる。このテニスコートを造った人たちは五年足らずで、全部畑にしようなどとは夢にもおもわなかったらう。

九日、ソヴィエトはソ満国境を越え、日本軍と交戦状態に入った旨発表された。四面楚歌の声とは此の事か。吾等は現代に生きている日本の学徒である。与減られし』自らの道を

猛進せんのみ。

八月十一日 雨

しばらく暑かったが、今日は涼しい。秋のやうである。

増田君が十日間休暇にて帰舎。清水君も帰舎した。現在舎にあるもの、飯田、北野、草地、兼坂、村上、石川、山本、河村、小杉、増田、河瀬也。アルバイトその他の関係で舎生の出入りが非常に頻繁である。

八月十九日 晴

十五日、米英支ソ四国へのカイロ宣言受諾に際する大詔勅発せらる。陛下の玉音を拝す。感極まるなし。

嗚呼、遂に緒期の目的を達し得ず、かかる結果になりらんとは...。而も、吾等生きてこの日に会わんとは...。全く思ひがけないことだった。然し、聖断は下された。吾、未だに呆然として為す術を知らず。

軍関係のアルバイトに出勤の石田、平、清水等帰舎。

八月二十日 晴

決算となす一人食費六十八銭、合計最高三十六円〇三銭、舎費も高くなったものだ。自分の入舎当時は二十度縁程度だったのに...。村上君の友人吉原萬平君(医)より書籍役二百五十円譲り受く。

灯火準備管制解除せらる。登校の際もゲートル着用をしなくてよくなった。...と見てくると却って戦争中より楽になってきた様に見える。然し、敗戦国の味を十分味はう日の来るのはまもなくの事であらう。如何なる困苦来るとも唯々諾々として大日本国民たるの自覚の下に萬事に処せんのみ。

八月二十二日

大分晴天がつづき作況も盛り返して来た様である。河瀬、試験近づきその他の原因により、当分、副舎長代理を北野君に依頼す。

九月二十日... (記述なし)

九月一日より各学部殆ど休みとなる(十五日間)その間、舎に残り氏もの、河村、石川、小杉君等のみ。本二十日河瀬帰舎。内田君が徴兵解除となり再入舎。(十八日)以来、エッセン集め及び談に大活躍中。本日夜決算をなす。結果要約左の如し。

現金支払い 463,34(中 40,00 代は来月廻し)総日数二百十二日 一日食費 1,06 円(総日数が少ないので高い) 部費 1,00 舎費 4,00 電 2,00 賄 3,00 合計最高 36,50 也。

尚、備忘の為、要点を記し置かんとす。

一、部費は一円 但し日数〇ノモノハ〇円トス

一、電灯代、実費を人数にて計算す。但し従来の如き休灯制はなくなりたる故、不在舎生も一年間完全不在の者以外は徴収す。

一、賄いお礼は三円、但しそのつきの健全不在者は徴収せず。

一、舎費は四円、完全不在者は五円。之は従来、部費、電灯代、その他を含む総額としたるも、後電灯台の値上げ、休灯制廃止のため、電灯代は別に集む。故に、完全不在者の納入すべき金額は舎費五,00円、電灯代となる。但し、特別の事情により、さらに増すこと無きにしもあらず。(本購入等)

二十年九月二十三日

菅沼健三先輩(獣医の )除隊せられ今夜来舎さる。二三日御滞在の予定。アルバイト、復員舎生等のため現在舎生二十二名、超満員である。冬の支度が心配である。

二十年九月二十五日

近く帰舎する舎生を迎ふるため、部屋、ストーブ等の整理、又部屋替へ、新役員決定等、しなければならぬ事が多い。且つ、眼前に試験を控えてどうも落ち着かない。近頃、毎晩のやうにエッセン作りが行はれる。そして内田君の大きな話し声、笑い声が聞こえる。

二十年十月五日

試験近きため、とかく社のことに疎に流れんとする傾向なきにしもあらず。自らの責務を十分自覚するを要す。三十日夜、全員会合(特別室)し舎のことにつき意見交換す。しかし大した収穫も得られず。

薪は大分心細い状態なので、大いに力を入れる事とす。一日より、一人一日平均三十本の薪を作ることとする。この企ては凡そ順調に行っている。

一日夜、田崎さん帰舎さる。自らの力、副舎長たるに不十分なるを覚ゆる現在、出来たら、早く田崎さんか北野君にでも代わってもらふのが当然ならんと思ふ。現在舎生二十二名。部屋不足、内 不足、食料問題等、冬を迎ふるの心配は極めて大きい。ただ最善を尽くして天命を待つのみ。

米軍の札幌進駐始まる。

十月十日

舎友、平戸勝七氏(農學部教授)来舎さる。辻君の剖検馬肉にてすき焼を共にし、大いに駄辯る。先づ、フィリピンの所見、次に日本の現状を批判し、學内の沈滞せる老教授一掃論等出づ。民主主義が次第に侵入するにつれ、言論批判も盛となる事であらう。然し、吾等は常に自ら確たる信條を有するを要す。徒らに時勢に迎合し、輕薄の暴論を無責任に吐くは有害無益ならん。吾等大いに、眞に理解を深むべく、自らを知るべく哲學するを要す。本日の駄辯り、大いに感銘する所あり。醫學部試験八日 - 二十日

十月十六日

北野君より便りあり、同君の家は洪水のため浸水を受け、大被害を被ったとの事。米軍将校来舎、舎の事情につき二、三しらべる。中學以来の英語がさっぱり役にたゝないのは、はずかしいことだ。

菅沼さん本日より、下宿にうつらる。

十月二十四日

医学部試験、完全に終了、快適快適（二十日）二十一日早速、田崎さん、辻君と共に南瓜買出し。一の澤へ行く。然しどうも買出し等は、感じのよいものではない。林檎一貫、十円、南瓜三貫五百で十七円五〇銭、全く高い。同じく

謹啓

秋冷の候、貴下益々御清勝の段奉賀候。

陳者、来る十一月三日十四時より、當舎第四十八回

記念祭式典開催致す事と相成り候間

御来駕の栄を賜り度く、右御案内申上候。

敬具

二十一日、上の如き招待状、百二十枚発送、宮部先生の御宅へ参上。後任副舎長を田崎さんにとお願ひした所、度々、副舎長を変へるのは好ましくない

河瀬が現在のまゝ續ける様にとのお言葉。依って、田崎、河村、石川、草地、村上、小杉、山本の諸君に諮り、宮部先生の御言葉に従ひ、河瀬が續ける事に決定。

二十一日夜、河瀬の兄永雄来舎、宿泊す。（二十一、二日）

二十日には決算あり。一日食費、一円。總計、最高四十円。

二十四日、特別室に会合し、新役員依頼す。

- 一、副舎長顧問 田崎、北野
- 一、會計委員 小杉 顧問 石川
- 一、配給部長（含食事） 村上 顧問 山本
- 一、勤労部長 北野 顧問 本吉、内田
- 一、文藝部長 河村
- 一、運動衛生部長 草地

次に舎の備品、使用後は直ちに返しておくこと、及び、オルガンは十二時 - 十三時、及十六時 - 十八時の間、一人二十分以内の取きめを爲す。 後、エッセン大会。

十月二十九日

二十七日、北野君歸舎、田崎さん及び同君と相談し部屋変へをきめる。

6號、本吉、平 10、内田、今井 5、北野、兼板、清水 4、草地、飯田 8、河村、小杉、辻 3、石川、戸倉 2、村上、中津 11、山本、十河 特別室、田崎、河瀬 7、娛樂室 食堂勉強部屋（以上） 十一月二日迄完了の事。二十九日村上君と二人で石炭交渉にゆく。終戦に伴ひ、炭坑の鮮人、華人労務者達がストライキを起し出炭量激減の由。今年の冬は、燃料、食料共に相当悲壮らしい。

十一月六日

三日、記念祭、宮部先生始め十名の先輩御出席、十四時より式を始む。宮部先生式辞の中に舎長の任を辞したき旨述べらる。先生御高齢を以て吾等舎生慈父として舎生活の中心となり、無言の教訓の数々を吾等に御示し下さること久し。今、この御言葉を頂き、たゞ驚き悲しむ。

宮部先生は、伊藤農學部長令嬢結婚式御出席のため、早く御退場、後、先輩諸先生と次期舎長につき、懇談す。尚、副舎長、委員を選擧制にすべき旨示さる、よって同日、行事終了後、副舎長選擧を行ふ。絶対多數を以て田崎さん当選。この事は小生も前より願ひ居たる事にして、新副舎長を中心に統一ある舎生活実現するを信じ、大いに喜ぶと共に、今後、新副舎長に協力し、大いに舎に盡くさんと心に誓ふ。

式後かぼちゃの晚餐を共にす。夕食後、余興大会、團體一等“いんちき大學”“若い人”個人一等、内田、二等、北野、賞品は南瓜、林檎。副舎長選擧後、式場を片付けて行事終了。後、會計簿その他を田崎さんに渡す。

五日、奥田先生、後任舎長の件について相談に来舎。

六日、宮部先生御宅へ参上の予定なりしも明日に延ばす。書き忘れたる故、こゝに書く。

十月三十、三十一日、二組に分れ角田へ南瓜買出しに行く。五十貫百五十円也。

十一月八日

七日、田崎さんと二人で宮部先生御宅へ参上。この間の副舎長選擧の結果を報告。本日を以て交替することゝなる。舎生全体の一致親和は、最も意を用ひたる点なりしも、その全きを得ざりしは、小生の才足らざるによる所にして深く謝する所也。然れども大部分の舎生諸君、よく協力され、アルバイトその他に従事されしは全く感謝にたへず、畑のアルバイトその他薪切り等、処期の結果を得しは、その衛に当られし數名、及、全員の積極的協力によるものなり。今後、田崎新副舎長を中心に舎内親和協力の實、益々あがり、ファイトあり充実せる舎生活の新発足を願ひつゝ、ここに副舎長事務引継ぎを完了す 醫學部二年 河瀬 登記

十一月九日

本日より田崎副舎長となる。之に先立ち形式上、役員を発表する。

前に同じに就き、茲には再記せず。

本日、娛樂室に定められた七号室にストーブ取付ける。

十河君昨日退舎。

十一月十九日

副舎長に就任してより一句を経た。この間、

一、宮部先生、舎長の辞意を表明せられ、よって一日奥田先生と相談し、理事、監事、評議員等の役員の整理、再選を行ひ、宮部先生が舎長を辞められて了ふ事は、甚だ、吾が青年寄宿舍にとって淋しさを感じさせる事になるので、舎長はお辞めになられても、名譽舎長とも云ふべき處に居て、寄宿舍を此の上も尚、育て下さる様御願ひする事に大体決まった。

一、全學、燃料と食糧事情極めて悪く、主食の配給さへも、現物が未配給の俛、繰越す事多く、米は近頃の舎の食事には僅かにおがめる程度となった。一時、偏在を慮って政府の生鮮自由販売策を止めさせたマッカーサー司令部も此頃になって、到底、配給策を維持させてみたのでは、死人が出る許りである事を見抜いて、来る廿日から統制を撤廃させる事にした。

一、入る入るの声のみで寄宿舍の石炭は其の後、全然入らず現在ある四噸半程にて今度の冬を抜けなければならない様だ。食堂、娯楽室にストーヴを入れ、そこに集まって勉強し駄辯ってゐる。

一、今年の冬は、今迄の處例年に比べて大変暖かくて感謝である。今迄に降雪を見たのは僅かに三回、それも一日以上降り続いた事はない。

學内の食堂の主食がパンになってから、外食券に対する價值觀が大分シーリアスになった。鮮人から十枚十五円也で買った人の居る處を見ると、**XXX**